



平成22年11月18日

各位

株式会社T&Dホールディングス
 (コード番号 8795 東証・大証第一部)
 太陽生命保険株式会社
 大同生命保険株式会社
 T&Dフィナンシャル生命保険株式会社

平成23年3月期第2四半期(中間)決算のお知らせ

T&D保険グループ(T&Dホールディングス、太陽生命、大同生命、T&Dフィナンシャル生命)の平成23年3月期第2四半期(平成22年4月1日~平成22年9月30日)の決算について、以下のとおりお知らせいたします。

契約業績(生命保険会社3社合算:個人保険・個人年金保険)

- 新契約高は、3兆3,316億円、前年同期から6.0%の増加、
- 解約失効高は、2兆3,177億円、前年同期から13.2%の減少、
- 保有契約高は、57兆9,071億円、前年度末から0.4%の増加となりました。

損益関係(T&Dホールディングス連結)

- 経常収益は、1兆788億円、前年同期から5.3%の減少、
うち保険料等収入は、7,302億円、前年同期から18.4%の減少となりました。
- 経常利益は、639億円、前年同期から36.4%の増加となりました。
- 中間純利益は、222億円、前年同期から54.2%の増加となりました。

通期業績予想(T&Dホールディングス連結)

- 通期業績予想の修正はありません。

以上

【お問合せ先】

株式会社T&Dホールディングス	広報部	松尾	TEL 03-3434-9181
太陽生命保険株式会社	広報課	木村	TEL 03-3434-5257
大同生命保険株式会社	広報課	前田	TEL 03-3434-9190
T&Dフィナンシャル生命保険株式会社	広報課	進藤	TEL 03-3434-8840

[契約業績（個人保険・個人年金保険）]

(単位：億円)

	3社合算		太陽生命		大同生命		T&Dフィナンシャル生命	
	当第2四半期累計	前年同期比	当第2四半期累計	前年同期比	当第2四半期累計	前年同期比	当第2四半期累計	前年同期比
新契約高	33,316	1,893 増 (6.0%増)	14,665	2,284 増 (18.5%増)	18,557	830 増 (4.7%増)	93	1,222 減 (92.9%減)
解約失効高 (解約失効率)	23,177	3,531 減 (13.2%減)	5,532 (3.05%)	97 減 (1.7%減) (0.19ポイント低下)	17,116 (4.59%)	3,393 減 (16.5%減) (0.72ポイント低下)	529 (2.31%)	39 減 (7.0%減) (0.37ポイント低下)
新契約年換算保険料	537	320 減 (37.3%減)	195	9 増 (5.3%増)	335	84 減 (20.0%減)	6	245 減 (97.3%減)
うち医療保障・ 生前給付保障等	48	11 減 (18.9%減)	36	10 減 (22.2%減)	12	0 減 (7.4%減)	—	— (—)

(注) 1. 新契約高には転換による純増加高を含んでおります。
2. 解約失効率は、年換算しておりません。

(単位：億円)

	3社合算		太陽生命		大同生命		T&Dフィナンシャル生命	
	当第2四半期末	前年度末 比較増減	当第2四半期末	前年度末 比較増減	当第2四半期末	前年度末 比較増減	当第2四半期末	前年度末 比較増減
保有契約高	579,071	2,071 増 (0.4%増)	187,706	6,515 増 (3.6%増)	369,755	3,158 減 (0.8%減)	21,609	1,286 減 (5.6%減)
保有契約年換算保険料	15,080	260 減 (1.7%減)	5,985	32 減 (0.5%減)	7,298	193 減 (2.6%減)	1,796	34 減 (1.9%減)
うち医療保障・ 生前給付保障等	1,636	21 減 (1.3%減)	1,092	5 減 (0.5%減)	496	13 減 (2.6%減)	47	2 減 (4.8%減)

< 3社単純合算 >

- ・新契約高は、3兆3,316億円、前年同期から6.0%の増加。
これは主に、太陽生命の保険組曲Best（生活応援保険）の販売が好調だったため。
- ・解約失効高は、2兆3,177億円、前年同期から13.2%の減少。
これは主に、大同生命の解約が減少したため。
- ・保有契約高は、57兆9,071億円、前年度末から0.4%の増加。

○太陽生命

- ・新契約高は、1兆4,665億円、前年同期から18.5%の増加。
これは主に、主力商品である「保険組曲Best」の新保障である「生活応援保険」の販売が好調であったため。
- ・解約失効高は、5,532億円、前年同期から1.7%の減少。
解約失効率は、3.05%、前年同期から0.19ポイントの低下。
- ・保有契約高は、18兆7,706億円、前年度末から6,515億円、3.6%の増加。
これは主に、新契約高が伸展したこと、および解約失効高が減少したため

○大同生命

- ・新契約高は、1兆8,557億円、前年同期から4.7%の増加。
- ・解約失効高は、1兆7,116億円、前年同期から16.5%の減少。
新契約高・解約失効高は、前年度下期からの回復傾向が継続している。
解約失効率は、4.59%、前年同期から0.72ポイントの低下。
- ・保有契約高は、36兆9,755億円、前年度末から3,158億円、0.8%の減少。

○T&Dフィナンシャル生命

- ・新契約高は、93億円、前年同期から92.9%の減少。
これは主に、前年販売が好調だった変額個人年金保険を3月末に販売休止したこと、および定額個人年金保険や終身保険の販売が不振であったため。
- ・解約失効高は、529億円、前年同期から7.0%の減少。
解約失効率は、2.31%、前年同期から0.37ポイントの低下。
- ・保有契約高は、2兆1,609億円、前年度末から1,286億円、5.6%の減少。

[損益関係]

(単位：億円)

	T&Dホールディングス連結		太陽生命		大同生命		T&Dフィナンシャル生命	
	当第2四半期累計	前年同期比	当第2四半期累計	前年同期比	当第2四半期累計	前年同期比	当第2四半期累計	前年同期比
経常収益	10,788	603 減 (5.3%減)	4,735	224 減 (4.5%減)	5,107	129 増 (2.6%増)	826	1,261 減 (60.4%減)
うち保険料等収入	7,302	1,642 減 (18.4%減)	3,520	48 減 (1.4%減)	3,599	324 減 (8.3%減)	180	1,270 減 (87.6%減)
うち資産運用収益	1,723	366 減 (17.5%減)	840	60 減 (6.8%減)	718	110 増 (18.2%増)	185	409 減 (68.8%減)
うちその他経常収益	1,762	1,406 増 (394.5%増)	374	114 減 (23.5%減)	789	344 増 (77.3%増)	460	418 増 (996.3%増)
経常費用	10,149	774 減 (7.1%減)	4,430	253 減 (5.4%減)	4,760	0 増 (0.0%増)	853	1,260 減 (59.6%減)
うち保険金等支払金	7,980	50 減 (0.6%減)	3,682	135 減 (3.6%減)	3,866	8 増 (0.2%増)	430	75 増 (21.4%増)
うち資産運用費用	810	107 増 (15.4%増)	148	92 減 (38.5%減)	304	35 増 (13.1%増)	368	182 増 (98.1%増)
経常利益 (△損失)	639	170 増 (36.4%増)	305	28 増 (10.4%増)	346	129 増 (59.6%増)	△26	0 減 (1.5%増)
特別利益	7	3 増 (80.2%増)	0	2 減 (74.5%減)	1	1 増 (1,169.4%増)	0	0 減 (63.7%減)
特別損失	141	64 増 (84.9%増)	71	5 増 (8.9%増)	63	53 増 (498.5%増)	0	0 増 (408.3%増)
契約者配当準備金繰入額 (△戻入額)	135	9 増 (7.8%増)	72	17 増 (31.2%増)	63	7 減 (10.7%減)	△0	0 減 (15.7%増)
税引前中間純利益 (△損失)	369	99 増 (36.7%増)	162	3 増 (1.9%増)	221	85 増 (62.8%増)	△27	0 減 (2.3%増)
法人税等合計	146	21 増 (16.9%増)	47	1 減 (3.4%減)	98	18 増 (23.7%増)	△7	0 増 (9.5%減)
中間純利益 (△損失)	222	78 増 (54.2%増)	114	4 増 (4.3%増)	122	66 増 (118.3%増)	△20	1 減 (7.3%増)
(参考) 資産運用関係収支 (一般勘定)	1,302	530 増 (68.7%増)	695	40 増 (6.1%増)	436	131 増 (43.3%増)	182	348 増 (一)

(注) 1. T&Dホールディングス連結の数値については、生命保険会社3社の単純合算とは必ずしも一致いたしません。
2. 保険料等収入の3社単純合算は7,300億円(前年同期比18.4%減)です。

<T&Dホールディングス連結>

- ・ 経常収益は、1兆788億円、前年同期から5.3%の減少。
 うち保険料等収入は、7,302億円、前年同期から18.4%の減少。
- ・ 経常利益は、639億円、前年同期から36.4%の増加。
 これは主に、資産運用関係収支(一般勘定)が増加したため。
- ・ 中間純利益は、222億円、前年同期から54.2%の増加。

○太陽生命

- ・ 保険料等収入は、3,520億円、前年同期から1.4%の減少。
- ・ 保険金等支払金は、3,682億円、前年同期から3.6%の減少。
- ・ 資産運用関係収支(一般勘定)は、695億円、前年同期から6.1%の増加。
 これは主に、金融派生商品費用が減少したため。
- ・ 経常利益は、305億円、前年同期から10.4%の増加。
- ・ 特別損失は、71億円。これは主に、価格変動準備金を60億円繰入れたため。
- ・ 中間純利益は、114億円、前年同期から4.3%の増加。

○大同生命

- ・保険料等収入は、3,599億円、前年同期から8.3%の減少。
- ・保険金等支払金は、3,866億円、前年同期から0.2%の増加。
- ・資産運用関係収支（一般勘定）は、436億円、前年同期から43.3%の増加。
これは主に、金融派生商品収益、利息及び配当金等収入が増加したため。
- ・経常利益は、346億円、前年同期から59.6%の増加。
これは主に、資産運用関係収支（一般勘定）が増加したため。
- ・中間純利益は、122億円、前年同期から118.3%の増加。

○T&Dフィナンシャル生命

- ・保険料等収入は、180億円、前年同期から87.6%の減少。
これは主に、前年販売が好調だった変額個人年金保険を3月末に販売休止したこと、および定額個人年金保険や終身保険の販売が不振であったため。
- ・保険金等支払金は、430億円、前年同期から21.4%の増加。
- ・資産運用関係収支（一般勘定）は、182億円、前年同期から348億円の改善。
これは主に、相場変動に伴い変額個人年金保険の最低保証リスクに係るヘッジ損益（金銭の信託運用損益）が前年同期の運用損から運用益となったため。
- ・経常利益（△損失）は、前年同期並みの△26億円。
これは主に、相場変動に伴い変額個人年金保険の最低保証責任準備金が前年同期の戻入から繰入となった一方、ヘッジ損益（金銭の信託運用損益）が前年同期の運用損から運用益となったため。
- ・中間純利益（△損失）は、△20億円、前年同期から1億円の悪化。

〔その他の指標等〕

(単位：億円)

	3社合算		太陽生命		大同生命		T&Dフィナンシャル生命	
	当第2四半期累計	前年同期比	当第2四半期累計	前年同期比	当第2四半期累計	前年同期比	当第2四半期累計	前年同期比
基礎利益	452	219 減 (32.6%減)	237	2 増 (1.0%増)	358	95 増 (36.4%増)	△143	317 減 (-)
逆ざや額	187	141 減	67	20 減	104	119 減	16	1 減

(単位：億円)

	3社合算		太陽生命		大同生命		T&Dフィナンシャル生命	
	当第2四半期末	前年度末 比較増減	当第2四半期末	前年度末 比較増減	当第2四半期末	前年度末 比較増減	当第2四半期末	前年度末 比較増減
ソルベンシー・マージン比率			1,128.5%	104.7ポイント上昇	1,153.1%	32.5ポイント上昇	627.2%	16.2ポイント低下
実質純資産	12,853	1,506 増	5,764	1,427 増	6,103	1 減	985	80 増
有価証券差損益(一般勘定)	3,705	1,416 増	2,609	1,362 増	984	27 減	112	81 増
うち公社債	2,563	1,759 増	1,590	1,196 増	860	480 増	112	82 増
うち株式	835	653 減	539	389 減	296	264 減	-	-
うち外国証券	440	554 増	407	498 増	32	55 増	-	-
うちその他の証券	△280	375 減	0	2 減	△282	372 減	0	0 減
うち金銭の信託	△3	6 減	-	-	△3	6 減	-	-
うち買入金銭債権	151	137 増	71	58 増	80	78 増	-	-
土地等の差損益	292	4 増	88	2 増	204	1 増	-	-

- (注) 1. 有価証券差損益については、有価証券のうち時価のあるものを記載しております。
 2. 土地等の差損益については、原則として鑑定評価額(重要性の低い物件等については公示価格等)をもとに算出しております。
 3. T&D保険グループの平成22年9月末におけるヨーロッパ・エンベディッド・バリュー(EEV)は、1兆2,160億円(前年度末比1,588億円減)となりました。なお、太陽生命は4,771億円(同14億円増)、大同生命は6,710億円(同1,473億円減)、T&Dフィナンシャル生命は678億円(同129億円減)となりました。
 詳しくは、「平成22年9月末ヨーロッパ・エンベディッド・バリューの開示について」をご参照ください。

＜3社単純合算＞

- ・基礎利益は、452億円、前年同期から32.6%の減少。
これは主に、T&Dフィナンシャル生命の基礎利益が減少したため。
- ・実質純資産は、1兆2,853億円、前年度末から1,506億円の増加。
有価証券差損益は、3,705億円、前年度末から1,416億円の増加。
これらは主に、株価下落等により株式・その他の証券の差損益が減少したものの、金利低下により公社債の差損益が大きく増加したため。

○太陽生命

- ・基礎利益は、237億円、前年同期から1.0%の増加。
逆ざや額は、67億円、前年同期から20億円の減少。
これらは主に、基礎利益上の運用収支が増加したこと、および予定利息負担が減少したため。
- ・ソルベンシー・マージン比率は、1,128.5%、前年度末から104.7ポイントの上昇。
これは主に、その他有価証券評価差額金が増加したため。
- ・実質純資産は、5,764億円、前年度末から1,427億円の増加。
有価証券差損益は、2,609億円、前年度末から1,362億円の増加。
これらは主に、金利低下により公社債の差損益が増加したため。

○大同生命

- ・基礎利益は、358億円、前年同期から36.4%の増加。
逆ざや額は、104億円、前年同期から119億円の減少。
これらは主に、基礎利益上の運用収支が増加したこと、および予定利息負担が減少したため。
- ・ソルベンシー・マージン比率は、1,153.1%、前年度末から32.5ポイントの上昇。
- ・実質純資産は、6,103億円、前年度末から1億円の減少。
- ・有価証券差損益は、984億円、前年度末から27億円の減少。

○T&Dフィナンシャル生命

- ・基礎利益は、△143億円、前年同期から317億円の減少。
これは主に、相場変動に伴い変額個人年金保険の最低保証責任準備金が前年同期の戻入から繰入となったため。
- ・逆ざや額は、16億円、前年同期から1億円の減少。
- ・ソルベンシー・マージン比率は、627.2%、前年度末から16.2ポイントの低下。
- ・実質純資産は、985億円、前年度末から80億円の増加。
- ・有価証券差損益は、112億円、前年度末から81億円の増加。

[平成23年3月期通期業績予想]

平成22年5月19日に公表いたしました業績予想からの変更はありません。
参考として、同日公表の業績予想を再掲いたします。

○T&Dホールディングス連結

(単位：億円)

	平成22年3月期実績	平成23年3月期予想	増減
経常収益	23,489	20,300	3,189 減 (13.6%減)
経常利益	805	1,030	224 増 (27.8%増)
当期純利益	242	330	87 増 (35.8%増)

1株当たり年間配当金予想は45円です。

なお、上記の前提となる生命保険会社3社(単体)の平成23年3月期の通期業績予想は次のとおりです。

(単位：億円)

	太陽生命	大同生命	T&Dフィナンシャル生命
経常収益	8,600 (646 減) (7.0%減)	10,400 (1,381 減) (11.7%減)	1,400 (2,860 減) (67.1%減)
経常利益(△損失)	490 (41 増) (9.3%増)	530 (38 増) (7.8%増)	△70 (72 増) (51.0%減)
当期純利益(△損失)	150 (4 増) (3.3%増)	180 (22 減) (11.3%減)	△50 (53 増) (51.7%減)

(注) 括弧内は平成22年3月期からの増減額・率です。

当中間期の業績を踏まえ、T&Dフィナンシャル生命において業績予想の変更を行っております。

経常収益：3,300億円→1,400億円、経常利益：△30億円→△70億円、当期純利益：△20億円→△50億円

※実際の業績は、今後様々な要因によって、上記業績予想と大きく異なることがあります。

以 上

(参考) 生命保険会社3社の平成23年3月期通期見通し

(単位：億円)

	3社合算	太陽生命	大同生命	T&Dフィナンシャル生命
基礎利益	1,030 (280 減) (21.4%減)	550 (40 増) (7.9%増)	590 (3 増) (0.6%増)	△110 (324 減) (-)
保険料等収入	15,100 (3,880 減) (20.4%減)	7,200 (63 増) (0.9%増)	7,300 (1,309 減) (15.2%減)	600 (2,634 減) (81.5%減)
逆ざや額	380 (197 減) (34.2%減)	70 (56 減) (44.4%減)	280 (136 減) (32.8%減)	30 (4 減) (13.5%減)
新契約高	61,800 (1,499 減) (2.4%減)	25,400 (989 増) (4.1%増)	36,000 (77 増) (0.2%増)	400 (2,566 減) (86.5%減)
保有契約高	570,500 (6,500 減) (1.1%減)	190,000 (8,809 増) (4.9%増)	359,700 (13,213 減) (3.5%減)	20,800 (2,095 減) (9.2%減)
解約失効率 (%)		6.9 (0.5ポイント上昇)	10.3 (0.3ポイント上昇)	4.7 (0.7ポイント低下)

(注) 1. 括弧内は平成22年3月期からの増減額・率です。

2. 新契約高、保有契約高および解約失効率は、個人保険と個人年金保険の合計です。

また、新契約高には転換による純増加高を含みます。

当中間期の業績を踏まえ、T&Dフィナンシャル生命において見通しの変更を行っております。

基礎利益：110億円→△110億円、保険料等収入：3,100億円→600億円、

新契約高：3,300億円→400億円、保有契約高：23,700億円→20,800億円

※実際の業績は、今後様々な要因によって、上記見通しと大きく異なることがあります。